日刊 岳南朝日　2026年（令和8年）1月28日（水曜日）

「マスマス元肥」など高評価

富士宮高校会議所　受賞の喜び報告

須藤市長に受賞の喜びを報告した高野さん（左）と望月さん（右）

富士宮高校会議所は県青少年育成会議の「青少年団体等の顕彰」および第11回全国ユース環境活動発表大会関東地方大会で「未来創造特別賞」に輝いたことを受け、このほど富士宮市役所を訪れて須藤秀忠市長に報告した。

同育成会議は、県内各地で地道な地域貢献活動を続ける青少年団体・個人などの功績をたたえる事業。昨年11月に牧之原市で開かれた子供・若者育成支援推進強調月間静岡県大会の席上、表彰式が行われた。

ユース環境活動発表大会は、高校生等のユースが全国各地で社会課題解決のために取り組んでいる、未来を創る未来世代の活動をサポートし、持続可能な地域循環共生社会の実現を目的に実行委員会が主催。関東大会には予選を通過した13チームが参加した。

同会議所がSDGs実践でニジマスの残渣（ざんさ）と朝霧牛の牛ふんから開発した堆肥「マスマス元肥（げんぴ）」を活用し、サツマイモやお茶等のスイーツ「マスマス元気いもプリン」やジェラート等を製造・販売したことや、栽培したヒマワリからひまわり油を製造し、シフォンケーキや化粧品等を企業や地元店とコラボして開発し、持続可能な社会をビジネス的視点で作ろうとしていることが評価された。

市長表敬には望月優希代表（富士宮東2年）と高野唯花リーダー（同）が訪れた。高野さんは「地域貢献的ボランティア活動を行う団体等との受賞を誇らしく思いました」、望月さんはプレゼンテーションソフトを使いながら、マスマス元肥を活用した持続可能な社会創りについて、「主に地元の特産品等を使った新商品を地元産業、企業等と開発した様子を発表しました」と紹介した。

須藤市長は「高校会議所は発足から10年経過したと聞いています。先輩の活動を受け継ぎ、持続可能な社会創りや地域貢献的ボランティア活動に継続的に取り組む姿を応援しています」とエールを送った。